

新潟県埋蔵文化財調査事業団年報

令和3年度
(2021)

公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

新潟県埋蔵文化財調査事業団年報

令和3年度
(2021)

公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

序

埋蔵文化財は、新潟県はもとよりわが国の歴史や文化を正しく理解するために欠くことができないものであり、かつ将来の文化の発展向上のために適切に保存・活用していくべき貴重な文化遺産です。

当事業団は、平成4（1992）年に新潟県が出資して設立したもので、組織の中心的な事業である発掘調査及び整理・報告書刊行のほか、埋蔵文化財保護に関する普及啓発・資料管理などに努めています。平成26年度には公益財団法人として再スタートを切り、現在に至っています。本書は、令和3（2021）年度に新潟県から委託を受けて実施した事業の概要や成果などをまとめたものです。

発掘調査は国道交通省事業関連の16遺跡、25,021m²を実施しました。このうち、縄文時代後期の大規模集落である村上市上野遺跡（国道7号朝日温海道路）では、多数の建物跡が検出されました。柏崎市丘江遺跡（国道8号柏崎バイパス）では平安時代末から鎌倉時代初めの木製塔婆が、南魚沼市金屋遺跡（国道253号八箇峠道路）からは平安時代の緑釉陶器皿や銚帯が出土しました。上越市下割遺跡（国道253号上越三和道路）では、平安時代の封緘木簡や多くの墨書土器が出土したほか、地下約4mから縄文時代の遺物・遺構を検出し、高田平野に営まれた縄文集落の一端が明らかになりました。

整理作業は、村上市上野遺跡（国道7号朝日温海道路）、六日町藤塚遺跡・坂之上遺跡（国道17号六日町バイパス）の整理を行いました。六日町藤塚遺跡・坂之上遺跡は発掘調査報告書を刊行し、古墳時代中期～後期の集落や祭祀、近隣古墳群との関係を明らかにしています。これらの情報は、年3回発行の広報紙『埋文にいがた』やホームページで随時公表したほか、4遺跡で現地説明会を開催し、延べ394人の参加者がありました。

普及啓発事業関係では、企画展として「誰も知らない？ 新潟の米の歴史」、「倭国大乱から律令国家成立までの越後平野」、「新潟の遺跡2021展」を開催し、新潟県埋蔵文化財センター講演会などを実施し、多くの方々に参加していただきました。また、火起こしや勾玉作りなどの体験を取り入れた校外学習支援や少年少女考古学教室では、児童・生徒に対して埋蔵文化財の価値や保存の大切さ、古の人々の生活や知恵を学ぶ楽しさを知る機会を提供できたものと考えています。

最後に、日ごろ当事業団の事業に御理解・御協力をいただいている関係各位に対し、厚くお礼を申し上げますとともに、今後のさらなる事業の推進に向け、一層の御支援をお願いいたします。

令和4年8月

公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

理事長 妹尾 浩志

目 次

I (公財)新潟県埋蔵文化財調査事業団の概要

1 目的及び事業	1
2 設立年月日	1
3 基本財産	1
4 組 織	1
5 役員及び職員	2
6 理事会・評議員会	2
7 予算及び決算	3
8 主な行事	4

II 発掘調査・整理事業

1 本発掘調査実績一覧	6
2 本発掘調査位置図	6
3 本発掘調査	7
大川城跡・竹ノ下遺跡(Ⅱ) (国道7号朝日温海道路)	7
上野遺跡(Ⅴ) (国道7号朝日温海道路)	9
山口遺跡(Ⅳ)・石船戸東遺跡(Ⅲ) (国道49号阿賀野バイパス)	11
新町遺跡(Ⅱ)・山口野中遺跡(Ⅴ) (国道49号阿賀野バイパス)	12
丘江遺跡(Ⅹ) (国道8号柏崎バイパス)	13
金屋遺跡(Ⅴ)・六日町藤塚遺跡(Ⅳ) (国道253号八箇峠道路)・ 宮林B遺跡 (湯沢地区道路施設整備)	15
ササラ西遺跡 (川口地区ほか道路施設整備)	17
館遺跡(Ⅲ)・弥五郎遺跡(Ⅱ) (国道253号上越三和道路)	18
堂古遺跡(Ⅲ) (国道253号上越三和道路)	19
下割遺跡(Ⅸ) (国道253号上越三和道路)	20
4 整理・報告作業	22
5 令和3年度刊行報告書	22
6 保存処理	23

III 普及啓発事業

1 現地説明会	25
2 企画展・常設展	25
3 発掘!新潟の遺跡2021展・遺跡発掘調査報告会・講演会	27
4 校外学習・体験イベント	27
5 広 報	29
6 入 館 者	30
7 出土品の管理	31
8 図 書	31

IV 研修・各種委員会

1 職員研修	32
2 安全衛生委員会	33

V 市町村及び関係機関等への協力

	34
--	----

5 役員及び職員

(令和3年4月1日現在)

役員

【評議員】(4名)	小林 昌二	寺崎 裕助	橋本 博文	中川 渉
-----------	-------	-------	-------	------

【理事会】(6名)	理事 長	稲荷 善之 (新潟県教育委員会教育長)
	理事	清野 一善 (専務理事) 笠原 英一 遠藤 和典
	監事	豊田 智 山田 修

職員

職名	氏名	職名	氏名	職名	氏名
事務局 長	清野 一善	文化財調査員	中島 愛理	普及・資料課 長	滝沢 規朗
総務課 長	五十嵐大介	再雇用嘱託員	鈴木 俊成	【普及・資料・保存】 班 長	田海 義正
班 長	小野澤浩嗣	【 整 理 】		”	高杉 晋平
嘱託員	3名	課長代理	荒川 隆史	嘱託員	9名
調査課 長	春日 真実	班 長	田中 祐樹		
【本発掘調査】 課長代理	佐藤 友子	嘱託員	6名		
”	石川 智紀				
専門調査員	飯坂 盛泰				

6 理事会・評議員会

会議名	開催日	付議事項等
第1回定例理事会	令和3年5月28日	1 令和2年度事業報告 2 令和2年度決算 3 諸規程の一部改正 4 定時評議員会の開催
定時評議員会	令和3年6月17日	1 令和2年度事業報告 2 令和2年度決算
第2回定例理事会	令和4年3月25日	1 令和3年度事業計画の一部変更 2 令和3年度収支補正予算 3 令和4年度事業計画 4 令和4年度収支予算 5 諸規程の一部改正 6 役員の辞任に伴う補欠選任候補者の推薦 7 臨時評議員会の招集の決定 8 評議員の辞任に伴う補欠選任候補者の推薦 9 評議員選定委員会の委員の変更
臨時評議員会 (決議の省略)	令和4年3月29日	1 役員の選任

7 予算及び決算

令和3年度収支決算書

(令和3年4月1日から令和4年3月31日まで)

収入の部

(単位：円)

科 目		当初予算額	補正後予算額 a	決 算 額 b	増 減 (b-a)	備考
大	中					
基本財産運用収入	基本財産利息収入	3,000	1,000	599	-401	
事業収入	発掘調査受託収入	1,422,977,000	1,549,305,000	1,549,305,090	90	
	センター管理運営受託収入	21,186,000	19,161,000	19,161,000	0	
	(センター管理業務受託収入)	9,050,000	8,774,000	8,773,700	-300	
	(保存処理業務受託収入)	3,200,000	3,200,000	3,200,000	0	
	(普及啓発業務受託収入)	8,059,000	6,304,000	6,304,000	0	
	(センター維持修繕業務収入)	877,000	883,000	883,300	300	
	補助金収入	国庫補助金収入	3,400,000	3,400,000	3,400,000	0
	地方公共団体補助金収入	868,000	868,000	868,000	0	
雑収入	雑収入	13,000	29,000	24,820	-4,180	
当期収入合計 A		1,448,447,000	1,572,764,000	1,572,759,509	-4,491	
前期繰越収支差額		296,000	301,000	301,171	171	
収入合計 B		1,448,743,000	1,573,065,000	1,573,060,680	-4,320	

支出の部

(単位：円)

科 目		当初予算額	補正後予算額 a	決 算 額 b	増 減 (b-a)	備考
大	中					
受託事業費支出	発掘調査費支出	1,335,338,000	1,453,091,000	1,453,088,352	-2,648	
	(国土交通省発掘調査費)	1,335,338,000	1,453,091,000	1,453,088,352	-2,648	
	センター管理業務費支出	9,050,000	8,774,000	8,773,700	-300	
	保存処理業務費支出	3,200,000	3,200,000	3,200,000	0	
	普及啓発業務費支出	8,059,000	6,304,000	6,304,000	0	
	センター維持修繕業務費支出	877,000	883,000	883,300	300	
補助事業費支出	補助事業費支出	6,800,000	6,800,000	6,800,000	0	
管理費支出	総務費支出	201,000	205,000	203,144	-1,856	
	管理費支出	84,906,000	93,477,000	93,481,594	4,594	
当期支出合計 C		1,448,431,000	1,572,734,000	1,572,734,090	90	
当期収支差額 (A-C)		16,000	30,000	25,419	-4,581	
次期繰越収支差額		312,000	331,000	326,590	-4,410	

8 主 な 行 事

【令和3年】

- 4月1日 辞令交付
- 10日 春季企画展「誰も知らない?! 新潟の米の歴史」開会、8月22日まで
- 25日 新潟県埋蔵文化財センター講演会 第1回

- 5月21日 会計（監事）監査（平成31・令和元年度）
- 28日 令和3年度第1回定例理事会（決議の省略）
- 30日 新潟県埋蔵文化財センター講演会 第2回

- 6月1日 職員健康診断（各自受診）、9月末日まで
- 17日 全国埋蔵文化財法人連絡協議会総会（Web開催）
令和3年度第1回定例評議員会
- 18日 安全衛生委員会巡視①（村上市上野遺跡・大川城跡）
- 27日 新潟県埋蔵文化財センター講演会 第3回
- 30日 安全衛生委員会巡視②（長岡市ササラ西遺跡・南魚沼市金屋遺跡）

- 7月4日 少年少女考古学教室 第1回（新潟県埋蔵文化財センター）
- 11日 新潟県埋蔵文化財センター講演会 第4回
- 15日 安全衛生委員会巡視③（上越市下割遺跡）
- 16日 安全衛生委員会巡視④（阿賀野市山口遺跡・新町遺跡）
- 19日 文化行政課連絡調整会議（自治会館）
- 22日 長岡市ササラ西遺跡現地説明会
- 27日 新潟県埋蔵文化財センター見学会 第1回
- 30日 救急法講習
『埋文にいがた』115号 発行

- 8月3日 新潟県埋蔵文化財センター体験会 第1回
- 5日 少年少女考古学教室 第2回（村上市上野遺跡ほか）
- 12日 新潟県埋蔵文化財センター講演会（第3・4回）映像会
- 22日 新潟県埋蔵文化財センター講演会 第5回
- 27日 職場の健康作り講座、『新潟県埋蔵文化財調査事業団年報 令和2年度』発行
- 28日 村上市上野遺跡現地説明会

- 9月14日 秋期企画展「倭国大乱～律令国家成立までの越後平野」開会、12月12日まで
- 19日 新潟県埋蔵文化財センター講演会 第6回

- 10月 1 日 消防訓練
- 3 日 阿賀野市山口遺跡現地説明会
- 10 日 少年少女考古学教室 第 3 回（新潟県埋蔵文化財センター）
- 14 日 安全衛生委員会巡視⑤（柏崎市丘江遺跡・南魚沼市六日町藤塚遺跡）
- 21 日 安全衛生委員会巡視⑥（村上市竹ノ下遺跡）
- 24 日 新潟県埋蔵文化財センター講演会 第 7 回

- 11月 3 日 南魚沼市金屋遺跡現地説明会
- 11 日 新潟県埋蔵文化財センター見学会 第 2 回
- 12 日 リーダーシップセミナー
- 18 日 新潟県埋蔵文化財センター体験会 第 2 回
- 21 日 新潟県埋蔵文化財センター講演会 第 8 回
- 26 日 『埋文にいがた』116 号 発行

- 12月 5 日 少年少女考古学教室④（新潟県埋蔵文化財センター）
- 6 日 少年少女考古学教室展示会開会 1月 10 日まで
- 8 日 新潟県埋蔵文化財センター 第 5・6 回講演会 映像会
水曜日の職員講座 第 1 回
- 17 日 市町村等埋蔵文化財専門職員実務研修①（新潟県埋蔵文化財センター）
- 22 日 新潟県埋蔵文化財センター 第 8 回講演会 映像会
水曜日の職員講座 第 2 回
- 24 日・26 日 冬のまいぶん祭り

【令和 4 年】

- 1 月 14 日 発掘！ 新潟の遺跡 2021 開会 3 月 27 日まで
- 19 日 水曜日の職員講座 第 3 回
- 28 日 サイバーセキュリティ研修
- 2 月 2 日
- 17・18 日 市町村等埋蔵文化財専門職員実務研修③（オンライン）
- 21 日 新潟県埋蔵文化財センター講演会 第 8 回（新潟県埋蔵文化財センター）1

- 3 月 4 日 文化行政課連絡調整会議（自治会館）
- 6 日 第 25 回遺跡発掘調査報告会
- 18 日 『埋文にいがた』117 号 発行
- 21 日 春のまいぶん祭り
- 25 日 令和 3 年度第 2 回定例理事会（自治会館）、
- 31 日 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第 291 集 六日町藤塚遺跡 I 第 1～3 次調査・坂之上遺跡 I 第 1・2 次調査』刊行

大川城跡 竹ノ下遺跡(Ⅱ)

事業名：国道7号朝日温海道路

所在地：大川城跡 村上市府屋地内
竹ノ下遺跡 村上市堀之内地内

面積：大川城跡 2,551㎡ 竹ノ下遺跡 536㎡

大川城跡

■ 遺跡の立地と調査の概要 大川城跡は戦国期に^{おおかわ}大川流域に勢力を誇った大川氏の居城である。山形県との県境近くを流れる大川左岸に所在する。府屋地区の街並みの南東に位置する古館山・高館山に大川城跡は立地し、古館山西裾に広がる段丘上には「藤掛り館」が所在する。調査地点は海岸から約900m内陸の古館山東斜面で、現況は竹林・森林であった。標高は、約11～36mである。現地形の測量の後、本格的な掘削作業を行った。

■ 層序 以下の4層に区分した。I層：表土、黒色(10YR3/1)の腐葉土、II層：暗褐色(10YR3/3)～鈍い黄褐色(10YR5/3)の褐色森林土、III層：褐色(10TR4/4)～灰色(7.5Y4/1)の砂礫層、IV層：礫岩の岩盤層。土層の堆積は薄い箇所が多く、表土下直下にIV層(礫岩の岩盤)が現れる地点も存在した。

■ 遺構 斜面中腹から溝と犬走り、斜面の裾付近から岩盤を削り貫いた溝を検出した。いずれも大川城跡の東に存在する沢(いとま沢)の奥に所在する溜池からの導水を目的とするもので、幅は約30cmである。斜面中腹の溝(SD3・4・4b)は、古館山西麓に所在した「藤掛り館」の跡地に作られた水田への導水、斜面裾付近のもの(SD5・6)は、いとま沢に作られた水田への導水を対象としたものと考えている。斜面中腹の溝は、2回(以上)の作り替えが確認できた。出土遺物がなく、溝が作られた年代については明らかにできなかった。

■ 遺物 遺物は、陶磁器・砥石などが出土している。陶磁器は4点あり、うち1点は15世紀後半から16世紀初頭の青花であり、大川城が山城として機能していた時期の遺物と考える。他の3個体は18世紀～19世紀であり、溝の中から出土したものではないが、溝が作られた年代、あるいは溝が水路として機能していた時期の一部を示している可能性がある。

■ まとめ 今回の調査では、戦国期の大川城跡の施設を確認することはできなかったが、斜面中腹の溝と犬走りは戦国期の遺構の一部を改変し作られた可能性を考慮する必要がある。



● 位置図(1:50,000)

(国土地理院5万分の1地形図「温海」平成2年発行)



● 大川城などの位置 (1948年3月31日米軍撮影)



● 調査前近景 (北東から)



● 斜面中腹の溝 (北から)

竹ノ下遺跡Ⅱ

■ 遺跡の立地と調査の概要 大川右岸の河岸段丘上と段丘下の沖積地に立地し、海岸から約1km内陸に位置する。現況は水田であった。今年度は河岸段丘上の地点を調査した。調査地点の標高は約12mである。

■ 層序 基本層所はシルト層と礫・砂を含むシルト層の互層となっている。Ⅰ層：工事盛土、Ⅱ層：褐灰色シルト（礫少量含む、旧耕作土）、Ⅲ層：灰黄褐色シルト（礫少量含む、旧耕作土）、Ⅳ層：にぶい黄褐色シルト、Ⅴ層：にぶい黄橙色シルト、Ⅵ層：にぶい黄褐色シルト、Ⅶ層：灰黄褐色シルト（遺構検出面）、Ⅷ層：黄灰色シルト（遺構検出面）である。

■ 遺構 調査区は、水路を挟んで北と南に分かれる。

水路の南側の調査区では遺構は検出されなかった。北側の調査区は、土坑・ピット・溝などを検出した。遺構の年代は中世から近世と考えられる。

■ 遺物 遺物は、須恵器・珠洲焼・陶磁器・石製品が平箱（内寸約54×34×10cm）1箱出土した。

■ まとめ 昨年度に続き、古代から中世の遺物が出土した。山形県境付近の土器様相を知るうえで、貴重な資料になるものとする。（春日真実）



● 調査区近景 (北東から)

かみの 上野遺跡(V)

事業名：国道7号朝日温海道路
所在地：村上市猿沢・松原地内
面積：3,402㎡

■ 遺跡の立地と調査の概要 遺跡は^{みおもて}三面川の支流である^{たかねがわ}高根川右岸の丘陵裾部に位置し、北西から南東へ緩やかに下る扇状地の扇端付近に立地する。遺跡の中心部の現標高は約35～39mである。遺跡は縄文時代後期前葉（約4,000年前）を主体とした集落で、居住域や廃棄場がある集落部、その南側に広がる土砂流などが堆積した砂礫部（低地部）に大きく分けることができる。令和3年度は令和2年度から継続の集落部（居住域）とそれより北側の一部を調査した。北側の調査



● 朝日温海道路と調査区全景（南から）

により、集落部の大きさは道路法線の延長方向（南北方向）で約140mの範囲に収まるものと推定される。

■ 層序 集落部では縄文時代後期前葉の遺物包含層が複数層確認でき、各層に対応した遺構・遺物が見つかった。大きく4層（4群）に分層されているが、今年度から層の呼称（括弧内は旧称）を変更した。上位からⅢa層（Y1層）、Ⅲb層（BK1層）、Ⅲc層（Y2層）、Ⅲd層（BK2層）とし、色調は黄色系（Ⅲa層・Ⅲc層）と黒色系（Ⅲb層・Ⅲd層）がある。西側の丘陵由来の堆積層で、花崗岩の風化礫を多く含む。現在はⅢb層に伴う遺構を調査中で、上野遺跡の主体時期と考えている。

■ 遺構 令和3年度は、引き続きⅢb層の途中までを調査した。現段階で平地建物58棟、掘立柱建物3棟、敷石建物1棟、石囲炉・焼土（地床炉含む）71基、土坑53基、ピット（小穴）2730基、埋設土器16基、集石・配石・立石13基、溝30条、自然流路2条などが見つかっている。焼土の遺存状況は良好で、大半が建物に伴う炉の可能性が高いと考えて、建物の復元作業を進めている。建物は竪穴建物、平地建物、敷石建物、掘立柱建物に分類することができ、現在調査している面では平地建物が主体と考えている。柱の配列は、炉を中心に主柱または壁柱が一重に巡るもの、主柱と壁柱（側柱）で二重に巡るもの、



● 位置図（1：50,000）（国土地理院5万分の1地形図「塩野町」平成15年発行・「村上」平成10年発行）

柄鏡形などがあり、周溝を伴うものも見つかっている。建物範囲は重複している場合も多く、時期差や建て替えなど、今後検討する必要がある。柱穴の掘方埋土に礫を入れて根固めをしている例もあるが、上野遺跡では柱痕部分から礫が複数見つかることが多い。建物廃絶後に意図的に入れた可能性がある。

掘立柱建物の復元作業はまだ途中であるが、大型の掘立柱建物は平地建物より古い時期に建てられている可能性がある。今後、平地建物の調査後に掘立柱建物の調査を行うので、建物型式による時期差や性格の違いなど、集落部の様相が鮮明になっていくものと思われる。

明確な敷石建物は1棟(SS480)調査した。長さ約1.4mの長方形の炉を中心に石が敷かれ、入り口と考えられる南側がやや張り出す。敷石からやや離れた外側に幅約30cmの溝(周溝)が巡り、壁際と推定すると平地建物とほぼ同規模の建物であったと考えられる。

また、令和2年度に見つかった焼人骨集積土坑は、同一部位の骨が認められたことから、最低3個体以上が埋葬(合葬)されていることがわかった。縄文時代後期前葉の合葬事例は全国に散見されるが、焼人骨を集積した類例は少なく、最古段階の資料としても貴重である。

■ 遺物 土器・石器・土製品・石製品が収納箱(内寸約54×34×10cm)で約500箱出土した。土器の型式は、新潟県の縄文時代後期前葉の遺跡に広く分布する、三十稲場式と南三十稲場式が主体で、東北系・関東系・信州系(ひんご式)の土器が含まれる。また、全体的に新しい時期の土器が、調査区北側に分布する傾向が明らかになった。しかし後期中葉以降に属するものは少量であり、今後も主体となる時期に大きな変更はないと思われる。写真の遺物は、放射状に複数の突起をもつ有孔の不明土製品である。平滑な底面は500円玉とほぼ同じ大きさで、下端付近の孔は横方向に貫通している。突起表現は三十稲場式土器の技法と共通することから、後期前葉の遺物と考えられる。他には土器片円板が複数枚まとまって見つかったことが注目される。上野遺跡では3例あり、内2例が計8枚と共通する。

■ まとめ 上野遺跡は約4,000年前の縄文時代後期前葉が中心の遺跡だが、土器の年代から250～400年間ほど利用されていた場と考えられる。継続的かは不明だが、居住域に多数の建物痕跡が密集し、多量の遺物が消費されている状況から、大勢の人が同時期に生活していた可能性がある。(石川智紀)



● SI650・SI1825 平地建物(北から)



● 不明土製品(左:高さ28mm)



● SS480 敷石建物(西から)

やま ぐち
山口遺跡(Ⅳ)
いしふな と ひがし
石船戸東遺跡(Ⅲ)

事業名：国道49号阿賀野バイパス

所在地：阿賀野市山口・百津地内

面積：山口遺跡 3,591㎡
石船戸東遺跡 160㎡

■ 遺跡の立地と調査の概要 両遺跡は複数回の本発掘調査を実施しており、今年度はバイパスに取り付く水路部分の調査である。山口遺跡は、阿賀野川や旧小里川によって形成された標高約6mの自然堤防上に立地し、中世・古代・弥生時代の遺構・遺物を検出した。石船戸東遺跡は、阿賀野川の流路跡にできた旧百津潟の縁辺部に位置し、標高は約7.5mである。中世・古代の遺構・遺物を確認した。



● 位置図 (1:50,000)

(国土地理院 5万分の1地形図「新津」平成9年発行)

■ 層序 両遺跡とも大部分は後世の削平により、水田耕作土の直下が遺構確認面となる。山口遺跡の基本層序は、I～VI層に分かれる。古代の遺物包含層であるIV層は、さらに細分できる。遺構は中世がIV層、古代がV層、弥生時代がVI層の上面で検出できる。石船戸東遺跡はI～VI層に分層でき、中世はIII層、古代はIV層上面で検出できる。

■ 遺構・遺物 両遺跡とも削平の影響が大きく、中世・古代の遺構は同一面で検出したものが多い。遺構の帰属時期は、埋土の質・特徴、出土遺物、過去の調査実績などから判断している。

山口遺跡では、中世の遺構として井戸18基、土坑15基、溝38条、性格不明遺構1基、ピット330基を検出した。井戸はすべて素掘りである。古代の遺構は、竪穴建物2棟、土坑23基、溝9条、性格不明遺構5基、ピット127基を検出した。過年度調査で明らかになっている居住域の東は、標高が約60cm低くなっており、水田を確認した。畦畔は直交・平行関係にあり、居住域へ伸びるもの、南北を指向するものがある。また、土質改良のうえ地業を施した畦畔も確認できる。弥生時代は調査区の西側のみに確認できる。土坑2基、性格不明遺構1基、ピット23基、自然流路1条を検出した。石船戸東遺跡は、中世の土坑4基、溝1条、ピット3基。古代の土坑3基を検出した。遺物は両遺跡とも少ない。山口遺跡の中世は13世紀後半～14世紀前半の珠洲焼・青磁・瀬戸美濃焼がある。古代は9世紀前半の須恵器・土師器が出土した。須恵器の食膳具が多い傾向にある。弥生時代は前期～中期の土器、石器が出土している。石船戸東遺跡は古代の須恵器甕口縁部が1点と土師器の細片が出土している。(株式会社吉田建設 伊藤正志)



● 山口遺跡 水田と畦畔 (北西から)



● 石船戸東遺跡 全景 (南から)

新町遺跡(Ⅱ) 山口野中遺跡(Ⅴ)

事業名：国道49号阿賀野バイパス

所在地：阿賀野市百津・月崎地内

面積：新町遺跡 670㎡
山口野中遺跡 527㎡

■ 遺跡の立地と調査の概要 両遺跡は阿賀野川右岸の沖積地に位置する。両遺跡周辺には境塚遺跡・石船戸東遺跡・山口遺跡など古代・中世の集落が多数立地する。新町遺跡は旧百津潟の自然堤防上に位置する。中世を中心とする遺跡であるが、下層から縄文時代後期中葉の遺跡を初めて検出した。中世集落は、井戸側に使用された板材の年代や出土遺物から13世紀代に形成され始めたと思われる。また、縄文時代後期中葉の遺構・遺物は隣接する土橋北遺跡と同時期であり、百津地区における縄文時代後期中葉の遺構・遺物の広がりを知る貴重な資料である。山口野中遺跡は阿賀野川の旧河道と自然堤防の間に立地する。古代～近世の遺構・遺物が確認されている。



● 位置図 (1:50,000)
(国土地理院 5万分の1地形図「新津」平成9年発行)

■ 層序 新町遺跡の基本層序は、平成26年度調査でⅠ～ⅩⅥ層に分層した。中世の遺構検出面はⅡ層で、ⅩⅠ層上面、ⅩⅡ層上面でそれぞれ縄文時代後期中葉の遺構を検出した。また、ⅩⅠ層は炭化物を多量に含む遺物包含層であった。山口野中遺跡は平成24年度調査でⅠ～Ⅷ層に分層した。遺構は上層(Ⅱ層)で近世、中層(Ⅳa層)で古代・中世をそれぞれ検出した。

■ 遺構・遺物 新町遺跡はⅡ層で井戸5基、土坑2基、溝3条、ピット6基を新たに検出した。平成26年度に調査され、今年度調査区内に跨っていた井戸5基、溝5条の調査も行った。井戸は素掘りと井戸側を持つものがある。SE114は縦板・支柱・棧木・水溜で構成する井戸側を持つ井戸である。また、SE650は水溜を持つ素掘りの井戸で、平成26年度に検出した道の側溝SD101より以前の遺構と確認できた。縄文時代の遺構は土坑1基・ピット9基を検出した。土坑やピットから縄文時代後期中葉の土器が出土した。山口野中遺跡は古代の溝1条・中世の竪穴建物状遺構1軒・土坑3基・溝8条・近世の溝3条を検出した。遺構は調査区南東側に集中し、遺跡はJR羽越本線北西側に広がっていることをあらためて確認した。
(株式会社吉田建設 阿部 司)



● 新町遺跡 SE114井戸側検出状況(南西から)



● 山口野中遺跡 遺構集中部分(北東から)

おかえ 丘江遺跡(X)

事業名：国道8号柏崎バイパス
所在地：柏崎市田塚3丁目ほか
面積：1,660㎡

■ 遺跡の立地と調査の概要 遺跡は、^{かしわ}柏崎平野の中央西寄り、^{さばいしがわ}鯖石川左岸の沖積地に位置する。標高は約6～7mである。調査は平成26年度から継続して行われており、これまでの調査で遺跡の南側が鎌倉～室町時代の中世集落（居住域）、北側が水田域（生産域）であることが明らかになっている。また、水田域の下層では縄文時代後期の遺物、弥生時代や平安時代の遺構・遺物・流路などを確認した。このほか、中世集落と重なるように江戸時代以降の集落を確認した。令和3年度の調査は、集落部と水田域の一部を対象とした。水田域の調査は、中世で最も古い段階にあたる水田畦畔の掘削のみを行った。

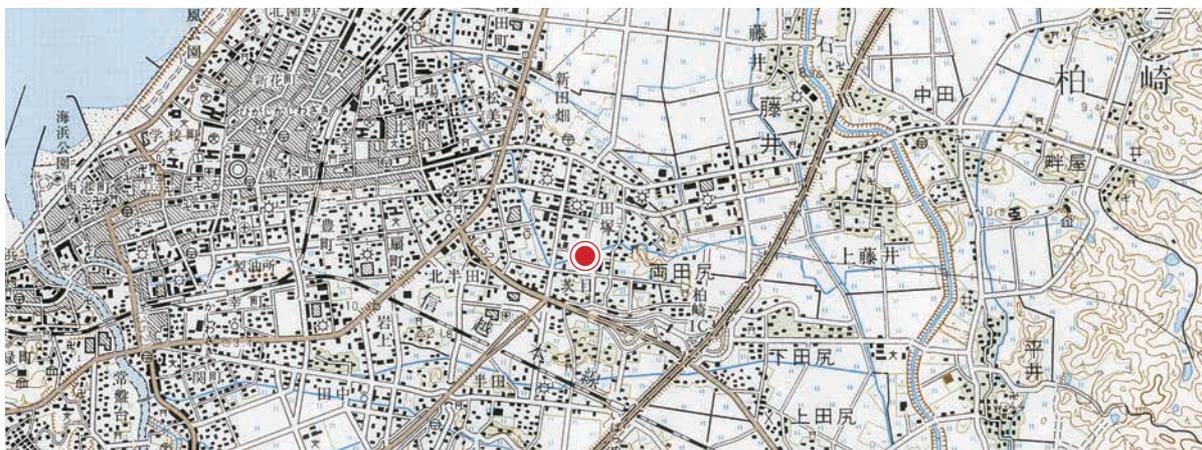


● 調査区全景（南から）

の調査は、集落部と水田域の一部を対象とした。水田域の調査は、中世で最も古い段階にあたる水田畦畔の掘削のみを行った。

■ 層序 基本層序は、これまでの調査に準拠しⅠ～Ⅳ層に分層したが、各調査年次・地区によって含まれる遺物や土質・色調に若干の差異が認められる。Ⅰ層は灰～黄灰色粘質土で、近世以降の水田耕作土である。Ⅱ層は中世の遺物包含層で、地点によってⅡa層（黄灰～褐灰色粘質土）とⅡb層（黒褐色粘質シルト）に分層した。近世以降の水田耕作に伴う攪拌によって、遺存状況は不良である。Ⅲ層は黒～黒褐色粘質土で弥生～古墳時代の遺物包含層とされるが、その存在は集落部においては限定的である。Ⅳ層は明青灰色粘質土で、中世～近世の遺構検出面である。

■ 遺構 集落部では、井戸46基、土坑6基、溝20条、性格不明遺構11基、ピット677基、杭列などを検出した。中世に帰属する遺構が主体であるが、近世以降に帰属する遺構も一定数認められる。ピットでは柱根が出土したものや、柱痕跡が認められるものが多数あり、複数の掘立柱建物が存在したものと推定される。井戸は、1基を除いて素掘りである。井戸の中には、土器や鉄製品などを据え置いたもの、



● 位置図（1：50,000）

（国土地理院5万分の1地形図「柏崎」平成19年発行）

曲物の破材や箸などの木製品を投入したものなど、特徴的な出土状況を示すものがある。これらは井戸の廃絶に伴う祭祀を執り行った痕跡、廃絶後に井戸を廃棄土坑として利用した痕跡などと考えられる。溝は大小あるが、このうち幅が1mを超えるものは、これまでの調査成果を踏まえると集落内を区画する溝であり、埋没と再掘削を繰り返しながら中世～近世にかけて機能していた。

■ 遺物 集落部では中世～近世の遺物と、極少量の平安時代の土師器・須恵器が出土した。遺物の大半が井戸や区画溝からの出土である。中世の遺物では、土師質土器、珠洲焼、越前焼、瀬戸・美濃焼、青磁、白磁などの土器類、砥石、硯、石臼などの石製品、漆器碗、箸、曲物、櫛、紡錘車、円形網代板、柱根、杭、礎板などの木製品、鉋、釘などの鉄製品と関連遺物として羽口、鉄滓が出土した。近世の遺物では肥前系陶磁器が出土し、上述した石製品、木製品、鉄製品には近世に帰属するものが含まれる。水田域では水田畦畔盛土から、極少量の弥生土器、平安時代の土師器、中世の土師質土器・珠洲焼などの土器類と、木製塔婆、細片化した木材などが出土した。木製塔婆は長さ123cm、幅19cm、厚さ2.3cmで、中央に阿弥陀如来を示す種子（キリーク）が彫られ、その上には天蓋、下には蓮台が描かれる。文様には漆を接着剤として金箔が押される。表面を下に向けた状態で畦畔盛土中から出土した。大型の木製塔婆は全国的にも珍しく、石川県珠洲市野々江本江寺遺跡ののえほんこうじ、同県金沢市千田北遺跡せんだきたなど僅少であり、金箔押しは2例目となる。

■ まとめ 令和3年度の調査成果としては、集落部ではこれまでの調査で明らかとなっていた中世の集落構造を補完するものとなった。また、水田域から出土した木製塔婆は出土層位・¹⁴C年代測定結果などから平安時代末～鎌倉時代前期の可能性が高く、丘江遺跡が形成される背景やその集団、さらには、木製塔婆の入手から使用、その後に水田畦畔の一部に転用されるに至る経緯など様々な事象を検討する資料となろう。今後の研究の進展に期待したい。
(株式会社大石組 南波 守)



● 井戸・円形網代板出土状況（東から）



● 東側調査区全景（南東から）



● 木製塔婆出土状況（北東から）と木製塔婆

かな や 金屋遺跡(V)

むい か まち ふじ つか 六日町藤塚遺跡(IV)

みや ばやし 宮林B遺跡

金屋遺跡・六日町藤塚遺跡
事業名：国道253号八箇峠道路
所在地：南魚沼市余川地内
面積：金屋遺跡 2,320㎡
六日町藤塚遺跡 555㎡

宮林B遺跡
事業名：湯沢地区道路施設整備
所在地：南魚沼郡湯沢町神立地内
面積：168㎡

金屋遺跡

■ 遺跡の立地と調査の概要 ありごやま 蟻子山東裾の標高192mの扇状地に立地する。平安時代の遺構面が2層ある。調査は、令和2年度からの続きと新たに確認された調査区を合わせて延べ2,320㎡（上層490㎡、下層1,830㎡）を実施した。

■ 層序 遺跡は、土石流堆積の砂礫で覆われている。平安時代の遺物包含層はVI層で、遺構の掘り込みからVIa層（上層）とVIb層（下層）の2層に分けられる。時期は、上層が9世紀後葉、下層が9世紀前葉～中葉である。

■ 遺構 上層面は、竪穴建物2棟、土坑5基、ピット276基、耕作溝などを検出した。下層面は、掘立柱建物5棟、竪穴建物1棟、土坑7基、溝18条、ピット734基、自然流路などを検出した。

■ 遺物 平安時代の土師器・須恵器・緑釉陶器・灰釉陶器の土器、青銅製の帯金具（鉸具）、鉄製の紡錘車・刀子、鍛冶関連の鉄滓・羽口が出土した。墨書土器は「昨女」・「旨」などの文字が記されたものがある。

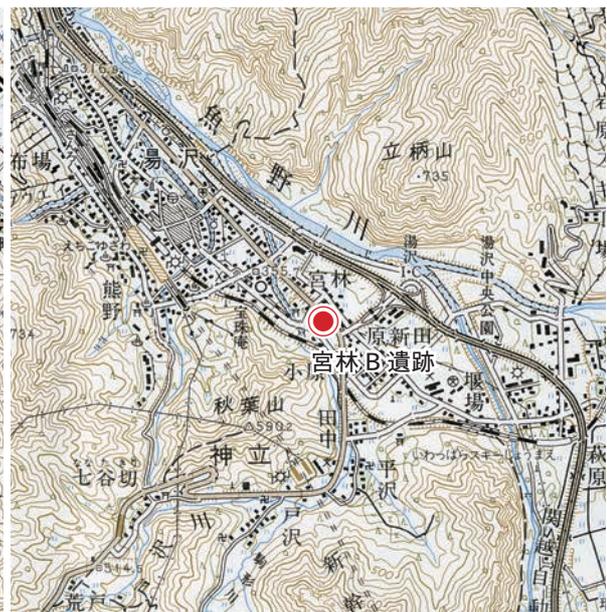
■ まとめ 9世紀前葉～中葉の集落の姿が明らかになった。出土遺物から有力者の存在がうかがえる。



● 金屋遺跡（上空北西から）



● 位置図（1：50,000）
（国土地理院5万分の1地形図「十日町」平成10年発行）



● 位置図（1：50,000）
（国土地理院5万分の1地形図「越後湯沢」平成7年発行）



● 緑釉陶器皿



● 帯金具(鉸具)



● 墨書土器「昨女」

六日町藤塚遺跡

■ 遺跡の立地と調査の概要 うおのがわ 魚野川左岸の しょうのまたがわ 庄之又川によって形成された標高 181m の扇状地に立地する。調査面積は 555m² である。

■ 層序 試掘調査では古代、古墳時代後期の遺構面を複数層確認しているが、令和 3 年度は表土直下の上層面を調査した。時期は、7 世紀末～8 世紀初頭の飛鳥・奈良時代である。

■ 遺構 土坑 27 基、ピット 370 基、自然流路などを検出した。

■ 遺物 古墳時代後期の土師器、飛鳥・奈良時代の須恵器・土師器、鉄製品が出土した。

■ まとめ 建物の柱穴を多く検出し、飛鳥・奈良時代の集落の一部が明らかになった。



● 六日町藤塚遺跡遺跡 (上空北西から)

宮林 B 遺跡

■ 遺跡の立地と調査の概要 魚野川左岸の標高 367m の段丘に立地する。時期は縄文時代前期後葉。調査面積は 200m² である。

■ 層序 地盤は、北東側から南東に向かって低くなる。調査区北東側では段丘礫層 (VI 層) が表土直下で露出し、洪水堆積の II 層は調査区南東側周辺でのみ堆積している。縄文時代の遺物は、その II 層が堆積している周辺で出土した。

■ 遺構 不整形の落ち込みを 10 数基検出したが、土器小片が多く埋土が攪拌して、掘り込み形状が安定していないことから耕作・土地改変等による攪乱と判断した。

■ 遺物 縄文時代前期後葉の土器、石器が少量出土した。

■ まとめ 遺跡の中心は北西側にある魚沼神社周辺にあり、調査地点は遺跡の外縁にあたる。(飯坂盛泰)



● 宮林 B 遺跡 (上空南東から)

ささらにし ササラ西遺跡

事業名：川口地区ほか道路施設整備

所在地：長岡市川口中山地内

面積：2,100㎡
(上層：677.5㎡、下層：1,422.5㎡)

■ 遺跡の立地と調査の概要 遺跡は魚野川^{うおのがわ}右岸の河岸段丘上に位置し、標高は約80mである。縄文時代晩期を対象とした1面調査の予定であったが、調査区の一部で中世の水田を確認したため、部分的に2面調査を実施した。

■ 層序 基本層序はI～VI層に分層した。I～II層は近世以降、III層は中世の水田耕作土で、上半をIIIa層、下半をIIIb層に分層した。IV層は縄文時代後・晩期の遺物包含層である。V層以下は地山であり、V層上面で遺構検出を行った。

■ 遺構 上層調査では、杭列、畦畔、水田区画を検出した。調査区の西側はIII層が堆積する低地であり、地形の境はII～IIIb層に対応する階段状の平坦面が作出され、杭列が密に打設される。杭列の年代は、放射性炭素年代測定により14～15世紀と判明した。畦畔は、礫集積を伴う盛土帯が低地を東西に横断する。この杭列及び畦畔によって低地は区画されており、水田であると判断した。下層調査では、土坑、遺物集中、流路を検出した。調査区の東側では遺構密度は薄く、遺物の出土は限定的であった。西側では上層における水田の直下に流路を検出した。流路覆土には多量の土器・石器等の遺物に加えて未分解の植物、流木が含まれ、粗砂が堆積する。流速の強い状況で埋没した状況が窺える。

■ 遺物 中世は珠洲焼・青磁・銭貨・鉄滓・漆器椀・下駄・曲物など少数である。縄文時代の遺物は多く、出土遺物の9割以上を占める。流路出土遺物が主体であり、後期後半～晩期前半を中心とした縄文土器・土製品・石器・石製品が出土した。土器・土製品は細片化したものが多い。石器・石製品は石鎌・石錐・石匙・打製石斧・磨製石斧・板状石器・石皿・砥石・磨石類・敲石・石棒類・石冠・ヒスイ製玉があり、磨製石斧の未製品や多面体敲石などの製作工具が多く含まれる点が特筆される。

■ まとめ 上層では中世の水田、下層では流路とその周辺的生活痕跡を検出した。水田は調査区の一部だけではなく全体に広がっていた可能性があるが、近世以降の攪乱により大部分を消失する。低地に残された情報から中世水田の復元に努めたい。下層の流路では、多量の遺物の存在から安定した集落の存在が想定される。ササラ西遺跡は、豊富な工程資料から磨製石斧製作集落として評価できるため、製作工程の復元を行い、その供給先を検討することが課題である。

(株式会社大石組 竹部佑介)



● 位置図 (1:50,000)
(国土地理院 5万分の1地形図「小千谷」平成6年発行)



● 調査区全景 (南東から)

たて 館 遺 跡 (Ⅲ) や 弥 五 郎 遺 跡 (Ⅱ)

事業名：国道 253 号上越三和道路

所在地：館 遺 跡 上越市駒林
弥五郎遺跡 上越市三和区岡木

面 積：館遺跡 429㎡ 弥五郎遺跡 1,781㎡

■ 遺跡の立地と調査の概要 両遺跡は高田平野の東部、保倉川の支流である飯田川と桑曾根川の間に位置し、標高約 14～15m の沖積地に立地する。館遺跡は、弥五郎遺跡の南西側に隣接する。館遺跡の調査区は、令和 2 年度の調査区に接する南西側と東側の 2 か所からなる。南西側は上層（古墳時代中期～中世）、東側は上層と下層（古墳時代前期）で調査を行った。弥五郎遺跡は上層と下層で調査を行った。なお、館遺跡の東側調査区と弥五郎遺跡の調査区は連続しており、弥五郎遺跡の上層・下層調査の際に一連の遺跡として調査を行った。



● 位置図 (1:50,000)

(国土地理院 5 万分の 1 地形図「高田東部」平成 19 年発行)

■ 層 序 これまでの調査に準拠して、両遺跡とも I～VII 層に分層した。大まかな層序は共通するが、対応する層は異なる。上層は両遺跡とも III 層、下層は館遺跡が VII 層上面、弥五郎遺跡が VI 層上面で遺構検出を行った。両遺跡とも下層の遺物包含層からは古墳時代前期の遺物が出土している。

■ 館遺跡 上層では、溝 6 条、自然流路 1 条、畝状小溝群 1 か所を検出した。そのほとんどが令和 2 年度の調査区あるいは弥五郎遺跡から連続するものである。遺物は、土師器片がわずかに出土しただけで時期特定できるような遺物の出土はない。下層では、弥五郎遺跡から延びる自然流路以外の遺構は検出していないが、遺物包含層からは古墳時代前期の土師器片が僅少量出土している。

■ 弥五郎遺跡 上層では、井戸 1 基、ピット 1 基、溝 3 条を検出した。遺物は、井戸から平安時代の須恵器瓶、灰釉陶器小瓶の破片などが出土した。下層では、土坑 2 基、自然流路 1 条を検出した。遺物は、遺物包含層から古墳時代前期の土師器片が少量出土した。出土状況には疎密があり、遺物が密集するか所は 6 か所確認しているが、その他遺構は確認できなかった。調査区の南東側から大規模な自然流路を検出した。規模は長さ 24.00m 以上、幅 14.00m 以上、深さ 1.70m 以上である。遺物は出土していないが、調査区東壁で観察した基本層序との関係から Vb 層段階の自然流路の可能性が高い。

(株式会社ノガミ 湯原勝美)



● 館遺跡上層完掘 (南西側調査区、真上から)



● 弥五郎遺跡下層完掘 (真上から、右下は館遺跡東側調査区)

堂古遺跡(Ⅲ)

事業名：国道 253 号上越三和道路

所在地：上越市米岡地内

面積：415㎡

■ 遺跡の立地と調査の概要 遺跡は高田平野の中央、飯田川左岸の標高約 14.7m の自然堤防上に立地する。令和 3 年度調査は平成 26・27 年度調査区の南東端に接する 415㎡ を調査した。遺物包含層は近現代の耕作に伴いほとんど欠失していたが、遺構は比較的良好に遺存する。

■ 層序 これまでの調査成果に準拠した。Ⅰ層は現表土、Ⅱ層は旧表土、Ⅲ層は古代の遺物を少量含むオリーブ褐色粘質土で、Ⅳ層は褐色粘質土である。遺構は全てⅢ層下面で検出した。

■ 遺構 遺構は古代のピット 1 基、中世の井戸 17 基、溝 6 条、土坑 3 基、ピット 69 基を検出した。遺物の出土が少なく時期は不明瞭な部分もあるが、これまでの調査成果を総合すると大半の遺構は 14～15 世紀に帰属する可能性が高い。検出した溝 4 条は区画溝であり、いずれも前回調査区から連続する溝である。そのうち 3 条は形状から方形区画の溝であると推定できる。堂古遺跡は井戸が多数確認できるのが特徴的であり豊富な地下水を求めて当地に集落が展開されたと可能性が高い。柱穴が多数検出でき、掘立柱建物が複数棟存在した可能性が高いが調査範囲が限られ建物の検出は困難であった。

■ 遺物 主に古代～中世の遺物が出土した。古代の遺物は土師器長胴甕、須恵器杯蓋・有台杯など一定量が出土したが中世の遺物と同時に出土することが多く、ほとんどが後世の集落構築時の掘削に伴う混入品の可能性が高い。中世の遺物は珠洲焼片口鉢・甕・壺、土師質土器皿、瀬戸美濃焼小皿、常滑焼小甕、青磁、青白磁、石製品（砥石、石硯）、銭貨（開元通寶、元符通寶、聖宋元寶）、木製品は鎌柄、曲物底板、そのほか鉄滓、珠洲焼転用砥石などが出土している。

■ まとめ 飯田川周辺における中世村落は堂古遺跡や周辺遺跡の例から水はけの良い自然堤防上に集落が展開し、周辺の居住に適さない低地を生産域として利用した。堂古遺跡はこうした飯田川周辺における、中世の集落の様相の一端を示しているといえるだろう。

(株式会社ノガミ 高尾将矢)



● 位置図 (1:50,000)

(国土地理院 5 万分の 1 地形図「高田東部」平成 19 年発行)



● 調査区全景 (南東上空から)

しも わり 下 割 遺 跡 (IX)

事業名：国道 253 号上越三和道路
所在地：上越市米岡・北田中・鶴町
面積：4,156㎡

■ 遺跡の立地と調査の概要 遺跡は高田平野の中央、飯田川左岸に所在し、標高約 14m の沖積地に立地する。調査区は、令和 2 年度調査の市道の延長 50m (市道)、橋台 1 か所 (A1)、橋脚 5 か所 (西から P1、P3～P6) である。調査面は、中世～近世および奈良・平安時代は市道と A1、飛鳥時代は A1、古墳時代は A1 と P1、縄文時代後期前葉～中葉は P3～P6 である。



● 調査区全景 (左手前市道、右奥橋脚・橋台 東から)

■ 層 序 基本層序は I～X 層に分層し、時代・時期によって層序を統一した。IV 層が中世～近世の

遺物包含層および水田耕作土で、V 層上面で遺構検出を行った。V 層が奈良・平安時代の遺物包含層で、VI 層上面で遺構検出を行った。VI 層が飛鳥時代の遺物包含層および遺構検出面である。VII 層が古墳時代後期～前期の遺物包含層で、VIII 層上面で遺構検出を行った。VIII・IX 層は無遺物層である。X 層は縄文時代後期前葉～中葉の遺物包含層で、XI 層上面で遺構検出を行った。

■ 遺 構 中世～近世の調査は、市道と A1 で行った。市道では水田畦畔 4 条、土坑 2 基、溝 12 条を、A1 では溝 1 条とピット 2 基を検出した。奈良・平安時代は、市道で井戸 1 基、土坑 1 基、溝 2 条、ピット 3 基を検出した。A1 では、調査区北東角で幅 11m 以上の自然流路を検出した。墨書土器、木簡、封緘木簡、齋串、丸木弓などが出土した。自然流路の深度は 4m 以上あり、遺物は 4・8・9・20 層から出土しているが、遺物の多くは 9 世紀代に帰属することから、短期間で埋没している可能性が高い。飛鳥時代は A1 でのみ調査し、土坑 2 基、焼土遺構 5 基、遺物集中か所 3 基を検出した。古墳時代は、A1 では遺構は検出できず、少量の土器が出土した。P1 では古墳時代前期の柱根を伴う柱穴 3 基と自然流路 1 条を検出した。柱根は、平成 15 年度の試掘で出土したものと合わせて掘立柱建物を構成する可能性が高い。縄文時代は、P3 は調査区全体が洪水とみられる粗砂で覆われ、粗砂を 20cm 掘り下げたところ土坑 2 基と自然流路を検出した。P4 では土坑 6 基、ピット 8 基等を検出した。このうち SK4309 は、墓標と考



● 位 置 図 (1 : 50,000)

(国土地理院 5 万分の 1 地形図「高田東部」平成 19 年発行)

えられる扁平な礫が垂直に立ち、後期前葉のひんご2式土器（石神類型）の深鉢が横位で出土した。人骨は確認していないが土壙墓の可能性もある。P5では土坑10基、溝1条、ピット29基を検出した。ほかの調査区より遺構数、遺物量ともに多い。P6では土坑8基を検出した。遺構は調査区の西から北側に多い。

■ 遺物 中世～近世の遺物はわずかだが、市道で肥前系の染付磁器が出土している。奈良・平安時代の遺物は市道のIV層からとA1の自然流路からの出土が多く、自然流路からは貯蔵具に比べ椀・杯類が多い。墨書土器は「人」、「成人」、「東人」、「千」、「継」などがある。第1号木簡は片面に「若湯坐□□事カ」もう片面に「□□保カ」と墨書される。このほか希少な封緘木簡の下部や木製盤などが出土した。市道では須恵器杯蓋の転用碗、内面に漆が付着した須恵器無台杯などが出土した。飛鳥時代の遺物は、須恵器小型壺、土師器甕・甑、内面黒色土器高杯、カマドの支脚などが出土した。縄文時代の遺物はP4とP5を中心に出土した。後期の土器は前葉の堀之内2式やひんご2式、中葉の加曾利B1式土器などが中心で、それに在地の南三十稲場式土器（元屋敷類型）や野首K式土器等が少量ある。注口土器は注口部だけで22点の出土を確認している。また、軽白胎土土器が一定量ある。土製品ではハート形土偶や小型土偶がある。P6ではアスファルト塊1点が出土した。石器は石棒2点（後期1点、中期1点）、立石1点、石鎌8点、磨製石斧17点、多面体敲石2点（うち1点はヒスイ製）が出土した。打製石斧、磨石類、石皿、切削具など一般集落で多く出土するような石器の出土は少ない。

■ まとめ 縄文時代後期前葉～中葉の出土遺物から関東や北信濃との濃密な交流の様子が看取できる。今回の調査で集落の範囲は東西170mほどと想定した。今後の調査で南北の範囲が明らかにできるかが課題である。また平安時代についても集落位置が課題となろう。 (株式会社ノガミ 細田尚克)



● P5 X層完掘（右上が北）



● P4 SK4309（南西から）



● X層出土の縄文土器



● ハート形土偶

4 整理・報告作業

整理作業は、過年度調査の村上市上野遺跡、南魚沼市六日町藤塚遺跡、南魚沼市坂之上遺跡を埋文センターで行い、令和3年度に調査した16遺跡は各整理所で実施した。デジタル図化編集及び印刷用PDFデータ作成は専門業者に委託し、報告書印刷は印刷業者にPDFデータを受け渡すことで効率化を図っている。

上野遺跡（村上市）：国道7号朝日温海道路建設に伴う調査。縄文時代後期前葉の集落遺跡。整理作業は3年目を迎えた。第2次調査の土器約600点について実測・拓本・デジタルトレースを行った。また、第4次調査の平面図編集を行った。

六日町藤塚遺跡・坂之上遺跡（南魚沼市）：国道17号六日町バイパス建設に伴う調査。古代・古墳時代の遺跡。整理作業は2年目である。遺物の実測・トレース、遺構・遺物図版及び写真図版の作成、原稿執筆、編集を行った。令和4年3月末に報告書を刊行した。

大川城跡（村上市）：国道7号朝日温海道路建設に伴う調査。戦国期の城跡。冬季整理作業で本文・図版を作成した。報告書刊行は令和4年度の予定。

新町遺跡（第2次調査）・**山口野中遺跡**（第5次調査）（阿賀野市）：国道49号阿賀野バイパス建設に伴う調査。古代・中世の遺跡。本文・図版を作成し、デジタル編集を行った。報告書刊行は令和4年度の予定。

宮林B遺跡（湯沢町）：国道17号湯沢地区道路施設整備に伴う調査。縄文時代後期の遺跡。冬季整理作業で本文・図版を作成し、デジタル編集を行った。報告書刊行は令和5年度の予定。

堂古遺跡Ⅱ（第3次調査）（上越市）：国道253号上越三和道路建設に伴う調査。中世の集落遺跡。冬季整理作業で本文・図版を作成し、デジタル編集を行った。報告書刊行は令和4年度の予定。

5 令和3年度刊行報告書

シリーズNo 発行日	報告書名 所在市町村	体裁 頁数	事業名	調査 年度	遺跡名	種別	主な 時代	主な遺構	主な遺物	担当者
第291集 R4.03.31	六日町藤塚遺跡Ⅰ 第1～3次調査 坂之上遺跡Ⅰ 第1・2次調査 南魚沼市	A4版 439頁	国交省 一般国道 17号 六日町BP	H29 ～R1	六日町藤塚 遺跡	集落跡	古墳	竪穴建物1、平地建物5、掘立柱建物1、土坑19、溝・自然流路17、ピット多数、土器集積遺構28、焼土19、集石遺構1、立木陥没跡1	土師器・須恵器・石製品・鉄製品・木製品	田中祐樹
						散布地	古墳	焼土1	土師器・須恵器	
					坂之上遺跡	集落跡	古代	土坑10、溝・自然流路8、土器集積遺構1、ピット多数、性格不明遺構3	土師器・須恵器・石製品・鉄製品・鍛冶関連遺物	
						集落跡	古代	竪穴建物1、掘立柱建物2、土坑12、溝・自然流路18、柵列1、ピット多数、性格不明遺構7	土師器・須恵器・石製品・鍛冶関連遺物	

6 保存処理

令和3年度は、担当職員1名と嘱託員5名で木製品・金属製品の保存処理を行った。

■ 木製品の洗浄・台帳作成・写真撮影

木製品保管棟で水漬け保管しており、保存処理は報告書刊行順に掲載遺物を優先して保存処理を行っている。遺物表面の泥汚れを水洗い後、長期間で染み込んだ鉄分などの汚れを落とすために薬液に漬けて脱鉄処理を行う。その後、処理前の状態を写真に記録してから、トレハロース含浸処理を始める。

■ 木製品の保存処理

乾燥による木材の収縮・変形を防止して強化を図るため、木材中の水分を空気中でも安定な糖アルコール（トレハロース）に置換し、結晶化させる「トレハロース含浸法」を採用している。令和3年度は大型品を実施した。今年度から長さ100cm・幅50cm・厚さ10cm以上を大型①として含浸期間8か月、長さ100cm・幅50cm・厚さ10cm未満を大型②として含浸期間5か月とした。温度調整が可能な大型含浸槽（槽内長さ3.0m）2台と小型含浸槽（槽内長さ1.7m）1台で実施した。なお、鎌倉・室町時代の大型曲物は、大型水槽による常温含浸後に温度調整可能な大型含浸槽で保存処理を行った。

大型木製品 大型含浸槽・小型含浸槽各1台を1サイクル、大型含浸槽1台は2サイクル稼働した。令和3年度は17遺跡289点について、トレハロース含浸から結晶化（取出し乾燥）までの作業を実施した（第1表）。前年の令和2年度に保存処理を実施した大型木製品17遺跡、244点はスチームクリーナーで表面で結晶化したトレハロースを溶かして拭い、しばらく乾燥させて保存処理を完了した（第2表）。この後、遺物ラベルと保存処理台帳を確認して収蔵庫に収納する



● 大型含浸装置での含浸状況



● 大型含浸装置から取り上げ後の乾燥



● スチーム後の梱包状況



● 再生したトレハロース

■ トレハロース溶液の再生

令和2年度に木製品を浸したトレハロース溶液は、自然乾燥により再結晶化を試みた。その結果、1,300kg程回収できた。再結晶化したトレハロースは、令和3年度に木製品の含浸に使用した。

■ 金属製品の洗浄・台帳作成（第3表）

報告書刊行順に遺物表面の泥汚れをエタノールで洗浄し、「保存処理台帳」に3遺跡の206点を登録した。その後、保存処理までRPシステム（脱酸素剤「RP剤」と酸素や水を通さないハイバリアフィルム「エスカル」を用いた保管方法）により保管した。

■ 金属製品の保存処理（第4表）

X線透過撮影により遺物の構造や劣化状態を確認した後、遺物表面を覆っている錆をグラインダーやメスなどで除去する。その後、腐食を促進する塩化物・硫酸を脱塩処理により取り除き、遺物の強化と腐食促進因子による再汚染防止を目的としたアクリル樹脂の含浸を行った。

令和3年度は9遺跡の鉄製品107点について、11遺跡193点の青銅製品の保存処理が終了した。



● サビ落としの状況



● 金属製品保存処理後の梱包状況

第1表 木製品の保存処理

報告書 No.	遺跡名	処理点数
157	住吉	6
176	窪田	23
182	岩ノ原	56
189	寺前	153
192	大館跡Ⅱ	4
193	谷地	5
210	荒町南新田	1
212	中田原	1
223	村前東A	6
228	山岸	1
232	境塚	4
245	野地	3
247	小船渡	11
258	山口野中	2
262	境塚Ⅱ	5
263	新町	7
277	蕪木	1
合計		289

第2表 木製品の表面処理

報告書 No.	遺跡名	処理点数
60	一之口東	4
133	青田	4
157	住吉	1
166	土居下	17
168	中曽根	5
172	鴨深甲	95
179	桜林Ⅱ	6
193	八太郎	2
193	田屋道Ⅱ・Ⅲ	1
194	西部Ⅳ	4
196	野地	2
205	狐塚	1
206	西部Ⅱ	50
207	竹花	32
207	姫御前Ⅱ	14
245	野地	5
258	山口野中Ⅱ	1
合計		244

第3表 金属製品保存処理

台帳の作成		
報告書 No.	遺跡名	登録点数
286	山口Ⅱ	186
288	丘江Ⅴ	12
289	境塚Ⅳ	8
合計		206

第4表 金属製品の保存処理

【鉄製品】		
報告書 No.	遺跡名	処理点数
216	柄目木Ⅰ	2
218	下新保高田	9
221	古渡路	5
223	村前東A	41
225	須沢角地	5
226	竹花Ⅱ	5
227	狐宮Ⅱ	3
227	下割Ⅳ	7
228	山岸	30
合計		107

【青銅製品】

報告書 No.	遺跡名	処理点数
140	東原町	40
216	柄目木Ⅰ	1
218	下新保高田	3
220	南押上	12
221	古渡路	27
224	長割	3
225	須沢角地	5
226	竹花Ⅱ	32
227	下割Ⅳ	10
228	山岸	39
230	下割Ⅴ	21
合計		193

Ⅲ 普及啓発事業

1 現地説明会

令和3年度は、ササラ西遺跡・上野遺跡・山口遺跡・金屋遺跡で現地説明会を開催し、参加者は合計で394名であった。

令和3年度現地説明会

遺跡名	所在地	主な時代	事業名	開催日	参加人数
ササラ西遺跡	長岡市	縄文・中世	川口地区ほか道路施設整備	7月22日(木・祝)	132名
上野遺跡	村上市	縄文	国道7号朝日温海道路	8月28日(土)	126名
山口遺跡	阿賀野市	弥生・古代・中世	国道49号阿賀野バイパス	10月3日(日)	71名
金屋遺跡	南魚沼市	古代	国道253号八箇峠道路	11月3日(水・祝)	65名
合 計					394名

2 企画展・常設展

■ 春季企画展「誰も知らない?! 新潟の米の歴史」

日本国内で米の生産が始まったのは、約2千数百年前の弥生時代からであるが、新潟は米作りが始まってからすぐに米どころとなったのか。どんな道具で大地を耕し、収穫したお米をどのように調理し、どのように食べていたか。本展では、これまで新潟県が発掘調査をしてきた遺跡出土品の研究成果を踏まえた展示地を通して、意外と知られていない新潟のお米の歴史に迫った。

〔稲作導入前ー縄文人の主食ー〕縄文人は主に木の実でカロリーを摂取していたと考えられる。新発田市青田遺跡ではクリをはじめ、多くの木の実が出土した。出土した土器から、大型の土鍋で木の実など加工し、小型の鍋を使って日常の食事を加工していた可能性が考えられる。

〔お米の調理方法の変化〕遺跡から出土する土鍋のスス・コゲの観察や蒸器の出現から、「煮る」から「古墳時代後期～平安時代には「蒸す」に変化した。中でも、弥生～古墳時代中期は「湯取り法炊飯」であったことが、土器外面の吹きこぼれが斜めのものがあるため分かった。

〔ご飯の食べ方〕調理法からも弥生～平安時代前半は、お米の粘り気が弱いため箸で持てず、身分の高い人は匙で、それ以外の人は手で食べていたと考えられる。新潟県の遺跡で箸が見つかるのは平安時代頃からで、鎌倉時代以降多く出土する。

〔大地を耕し、収穫する道具〕これらの道具は作業工程により、農工具、収穫具、調整具に分かれる。道具の素材は石、鉄、木などがあり、新潟県では長岡市大武遺跡などで木の道具が特に多く見つかっている。

これらの展示品152点をとおして、県民の皆様には郷土の歴史への理解を深めていただいた。観覧者数は6,961人である。



● 「誰も知らない?! 新潟の米の歴史」展示の様子

■ 秋季企画展「倭国大乱～律令国家成立までの越後平野」

現在の村上市から長岡市にかけて広がり、本州日本海側では最大の面積を誇る越後平野。中国の歴史書に、大いに乱れた倭国を邪馬台国の女王・卑弥呼が鎮めたと記された弥生時代後期（2世紀後半）から、律令国家が成立したとされる8世紀の直前まで、越後平野はどのような歩みをたどったのか。本展では、最新の発掘調査を踏まえ、この地域の重要性に迫った。

この時代は、西日本でも近畿地方が中心地とされている。西日本の情報が直接伝わる日本海側最北の地が、新潟県の中でも越後平野で、主に下記がある。

弥生時代：戦いに備えたとされる高地性集落・環濠集落（村上市山元遺跡^{やまもと}）

古墳時代：最も格が高いとされる前方後円墳（新潟市菖蒲塚古墳^{あやめづか}・（仮称）角田浜妙光寺古墳^{かくだはまみょうこうじ}）

飛鳥時代：北方の勢力に備えた軍事施設とされる淳足柵・磐舟柵（未発見）

新潟県のもう一つの特徴は、北方社会の情報が伝わる日本海側最南地の時期が多いことである。これは、弥生時代後期～古墳時代前期にかけて、続縄文土器と呼ばれる北海道由来の土器が出土する日本海側最南地であったことから裏付けられる。西方社会からみれば日本海側最北地、北方社会からみれば日本海側最南地で、特に越後平野はその傾向が強い地域であった。

当企画展は、新潟市文化財センターと共催し、第1会場・新潟県埋蔵文化財センターと第2会場・史跡古津八幡山 弥生の丘展示館で総数400点程の出土品を展示した。第2会場では新潟市の資料を、第1会場では県が発掘調査したものに加え、村上市・胎内市・新発田市・新潟市・阿賀野市・加茂市・田上町・三条市・長岡市・新潟大学考古学研究室の協力を得て、県・市指定品を含む選りすぐりの品を展示した。

これらの展示品をとおして、日本の国が成立して過程で、西（南）方、北（東）の情報が交差する越後平野の重要性を感じていただいた。観覧者数は11,756人（第1会場4,933人、第2会場6,823人）である。

■ 常設展

速報展示コーナーにおいて、阿賀野市山口遺跡^{やまぐち}（縄文時代晩期・平安時代・鎌倉～室町時代）、村上市上野遺跡^{かみ}（縄文時代後期）、冬季企画展にあわせて整理作業の仕事を紹介する展示を行った。そのうち村上市上野遺跡の展示は、職場体験で来館した中学生がネームプレート作りやレイアウトを決めながら行った。また、昨年度の市町村への出土品譲与によって空いたスペースに、新たに展示ケースを2つ設置した。今年度は校外学習の体験メニューでもある火起こし・勾玉をテーマに展示した。



● 「倭国大乱～律令国家成立までの越後平野」展示の様子



● 速報展示コーナー

3 発掘！新潟の遺跡 2021・遺跡発掘調査報告会・講演会等

■ 発掘！新潟の遺跡 2021

公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団が令和3年度に発掘調査を行った村上市上野遺跡、阿賀野市山口遺跡、長岡市ササラ西遺跡、南魚沼市金屋遺跡、上越市下割遺跡の5遺跡の出土品・写真パネルなどの展示を行った。速報性が高い内容で、多くの展示品が初公開となった。期間は令和4年1月14日(金)から3月27日(日)の開催であった。期間中の入館者は2,860人であった。

■ 第25回遺跡発掘調査報告会

令和4年3月6日(日)に埋蔵文化財センター研修室で開催した(主催：新潟県埋蔵文化財センター)。午前中、令和3年度調査成果報告として、阿賀野市山口遺跡、長岡市ササラ西遺跡、南魚沼市金屋遺跡、上越市下割遺跡の報告を行った。

午後のシンポジウム「上野遺跡と焼かれた人骨」では、村上市上野遺跡の調査成果報告の後に、東京都立大学の山田康弘教授から「上野遺跡の焼人骨と縄文時代の死生観」と題する講演をいただき、その後、パネルディスカッションでは、上野遺跡と焼かれた人骨について議論した(山田教授は新型コロナの影響によりリモートで参加)。参加人数は会場で31人、オンライン配信で51人であった。

■ 新潟県埋蔵文化財センター講演会

春季と秋季の企画展のテーマに合わせ、4月から11月に全8回の講演会を実施した。新型コロナ対策として例年80名の定員を40名にしたが、希望者が多くすぐに定員に達したため、午前・午後の2回実施したり、録画した講演会映像の上映会を行ったりした。

上映会も含む講演会の参加人数は、合計465人であった。

■ 水曜日の職員講座

新たな試みとして、県・市町村の専門職員が、調査・研究成果を通じて遺跡・遺物の重要性を発信する講座を12月から2月に全5回実施した。また、定員に達したため、試験的にオンライン・ライブ配信を実施して会場に参加できない受講希望者に対応した。第4回と第5回は新潟県に「まん延防止等重点措置」が適用されたため、参加者にワクチン接種証明等を求めた。また第4回は所属先の方針により講師が来場できなくなったため、事前に講座を録画してもらい、それを会場で上映した。このような状況と悪天候が重なったため、第4回と第5回の会場での参加者にキャンセルが多く出たが、その分オンライン配信での参加者が多かった。

全5回の会場での参加者は合計155人、オンライン配信での参加者は合計60人であった。

4 校外学習・体験イベント

■ 校外学習・出前授業・職場体験・団体見学

令和3年度に校外学習で来館した学校等は39校2,545人、出前授業は13校574人、職場体験は4校20人(複数日来館含む)、合計56校3,139人であった。前年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で大きく減少したが、今年度は回復し、ほぼ新型コロナ以前と同等の実施回数となった。

校外学習の内容は、本物を用いた歴史学習、火起こし・勾玉作りなどの体験学習、展示見学・仕事見学、土器接合を行う職場体



● 校外学習で本物の縄文時代の石器に触る

令和3年度 体験学習等参加校一覧
校外学習

No.	月日	曜	学校名	学習の内容							人数 引率者含む	
				実物学習	石器使用	火起こし	勾玉作り	展示見学	仕事見学	職場体験		その他
1	5月6日	木	五泉市立川東小学校						○	○		24
2	5月7日	金	新潟市立新津第二小学校			○	○	○	○			55
3	5月14日	金	新潟県立出雲崎高校	○	○		○					36
4	5月31日	月	新潟市立笹口小学校	○	○	○		○	○			50
5	6月1日	火	新潟市立南中野山小学校	○	○	○						62
6	6月4日	金	新潟市立巻北小学校	○	○	○		○	○			95
7	6月8日	火	新潟市立木崎小学校	○	○			○	○			70
8	6月18日	金	新潟市立山の下小学校				○	○	○	○		43
9	6月21日	月	五泉市立五泉南小学校	○	○	○						65
10	6月25日	金	新潟市立小林小学校	○	○				○	○		27
11	6月28日	月	新潟市立桃山小学校	○	○		○	○	○			102
12	6月29日	火	新潟市立亀田東小学校	○	○	○		○	○			67
13	7月1日	木	新潟市立坂井輪小学校	○	○	○		○	○			114
14	7月2日	金	新潟市立亀田東小学校	○	○	○		○	○			66
15	7月6日	火	新潟市立小合東小学校					○	○	○		11
16	7月8日	木	新潟市立葛塚小学校	○	○		○	○	○			97
17	7月9日	金	新潟市立結小学校			○	○	○	○			126
18	7月13日	火	新潟市立阿賀小学校	○	○	○		○	○			48
19	7月14日	水	新潟市立荻川小学校	○	○	○		○	○			109
20	7月16日	金	新潟市立江南小学校	○	○		○	○	○			81
21	7月20日	火	新潟市立浜浦小学校				○	○	○			84
22	8月10日	火	小須戸地区公民館							○		6
23	9月2日	木	新潟市立女池小学校	○	○	○		○	○			132
24	9月22日	水	新潟市立東青山小学校	○	○	○		○	○			68
25	9月24日	金	新潟市立新通小学校	○	○		○	○	○			88
26	10月4日	月	新潟市立曾野木小学校	○	○	○	○	○	○			52
27	10月11日	月	新潟市立大関小学校	○	○	○		○	○			21
28	10月15日	金	新潟市立和納小学校	○	○		○	○	○			29
29	10月19日	火	新潟市立新通つばき小学校	○	○		○	○	○			104
30	10月25日	月	新潟市立小合小学校					○	○	○		20
31	10月26日	火	新潟市立東中野山小学校	○	○	○		○	○			82
32	10月27日	水	新潟市立新津第三小学校	○	○		○	○	○			80
33	10月28日	木	新潟市立桜が丘小学校	○	○	○		○	○			84
34	10月29日	金	新潟市立新津第三小学校	○	○		○	○	○			54
35	11月2日	火	新潟市立新津第一小学校	○	○		○	○	○			79
36	11月5日	金	新潟市立中野山小学校				○	○	○			70
37	11月19日	土	新潟市立山瀧小学校	○	○			○	○	○		59
38	12月1日	水	新潟市立鳥屋野中学校				○	○				29
39	3月9日	水	新潟市立赤塚中学校				○	○		○		56
合計				28	28	17	18	32	33	6	2	2,545

出前授業

1	5月25日	火	見附市立今町小学校			○	○					84
2	5月27日	木	聖籠町立亀代小学校	○	○							56
3	6月2日	水	新潟市立岡方第一小学校	○	○	○						21
4	6月3日	木	新潟市立立仏小学校			○						51
5	6月9日	水	新潟市立豊栄南小学校	○	○	○						10
6	6月11日	金	新発田市立紫雲寺小学校	○	○							23
7	6月14日	月	聖籠町立亀代小学校			○						56
8	6月17日	木	燕市立小池小学校	○	○		○					56
9	6月22日	火	新潟市立新関小学校	○	○	○						12
10	6月23日	水	柏崎市立北鱈石小学校	○	○	○	○					22
11	6月24日	木	聖籠町立蓮野小学校	○	○		○					43
12	7月5日	月	新潟市立万代長嶺小学校	○	○							61
13	10月20日	水	新潟市立大通小学校	○	○					○		79
合計				10	10	7	4	0	0	0	1	574

職場体験

No.	月日	曜	学校名	体験の内容						人数 引率者含む		
				館内見学	註記	接合	拓本	保存処理	展示作業		体験準備	その他
1	5月11日	火	新潟市立小須戸中学校	○	○	○	○			○		5
2	5月12日	水	新潟市立小須戸中学校		○	○	○	○		○		5
3	10月5日	火	新潟市立小合中学校	○	○	○	○					5
4	10月6日	水	新潟市立小合中学校					○	○		○	5
合計				2	3	3	3	2	1	1	2	20

団体・その他（職員が解説等をした団体）

No.	月日	曜	団体名	見学の内容						人数 引率者含む		
				展示見学	実物学習	火起こし	勾玉作り	石器体験	仕事見学		職場体験	その他
1	5月2日	日	新潟大学	○								11
2	5月26日	水	亀田福寿大学 探訪部	○								22
3	5月28日	金	西遊旅行	○								7
4	7月31日	土	柏崎市立博物館	○								45
5	10月1日	金	信和会老人クラブ	○								17
6	10月11日	月	新潟市立新関小学校 PTA				○					1
7	10月21日	木	三条農業地域振興局	○								7
8	11月4日	木	江南区清寿会	○								22
合計				6	0	0	1	0	0	0	0	132

験である。一度の受け入れ人数の上限を原則 80 名とし、換気や消毒、座席の間隔を確保など、新型コロナウイルス感染症対策をとりながら実施した。

職場体験は、小須戸中学校が当初 4 日間（春 2 日、秋 2 日）の予定であったが、臨時休館のために後半の 2 日間は実施できなかった。団体見学は 8 団体 132 人であった。

■ 少年少女考古学教室

少年少女考古学教室（全 4 回）は、学年や地域が違う仲間たちと交流しながら、土器や石器などの遺物に触れ、様々な体験活動をとおして古代の人々の知恵や生活を学ぶことを目的とする。令和 3 年度も、全 4 回とおしでの参加を条件に募集し、遺跡や歴史に興味がある小学 4 年生～中学 1 年生の 15 人が参加した。

座学での解説授業やセンター内外の施設の見学のほか、「土器作り」「発掘」「石器作り」「カラムシ引き」「アンギン編み」「火起こし」「土器でクリを煮る」「弓矢」「拓本」などの体験を行った。第 4 回では、それまで学んだ成果をポスターにまとめ、作品とともに 1 階ホールで約 1 カ月間展示した。



● 少年少女考古学教室での発掘体験（上野遺跡）

■ 埋蔵文化財センター見学会・体験会

令和 2 年度に続き、大人向けの見学会を平日に行った。令和 3 年度は、見学会と体験会に分け、それぞれ同内容のものを 2 回（夏と秋）実施した。

見学会では、センターの概要を説明した後、2 班に分けて特別収蔵庫・調査員室の見学と保存処理室の見学を交互に行った。調査員室では整理作業を見学した後、実測道具を実際に使って縄文土器の形を取るなどの体験を行った。



● 体験会での「縄文土器の観察」

体験会では、2 班に分けて、「縄文土器」と「石器」の観察・体験を交互に行った。全 4 回の参加者は、合計で 62 人であった。

■ まいぶん祭り

10 月に実施予定であった「まいぶん祭り」は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となった。その後、実施可能と判断し、「まいぶん冬まつり」と「まいぶん春まつり」を実施した。

「まいぶん冬まつり」は、12 月末の平日に 2 日間実施した。内容は、1 日目が「勾玉づくり」と「クイズに答えてガチャ」、2 日目が「ミニ土器作り」と「クイズに答えてガチャ」である。2 日間の参加者は合計で 52 人であった。

「まいぶん春まつり」は、3 月の祝日に実施した。内容は、「勾玉づくり」「アンギン編み」と「クイズに答えてガチャ」である。参加者は合計で 246 人であった。

5 広 報

■ 年 報

1 年間の事業概要の総括したもので、8 月 27 日令和 2 年度版（A4 版 32 頁）を刊行した。印刷物を 30 部作製するとともに、当事業団のホームページで公表した。

■ 埋文にいがた

発掘調査速報やイベント情報を中心とする広報紙で、7月・11月・3月に発行した。印刷部数は各号2,000部である。各刊行号とバックナンバーは事業団ホームページで公開している。

令和3年度発行「埋文にいがた」内容一覧

号	発行年月日	調査・整理遺跡の紹介	その他	県内の遺跡・遺物
115	令和3年 7月30日	令和3年度本発掘調査遺跡・整理遺跡の紹介 堂古遺跡（上越市）	埋文コラム「箸について」 埋文コラム「鉄斧に付着した『ウジ圧痕』の意味するもの」 埋文コラム「わか町の文化財紹介－佐渡市－佐渡金銀山遺跡」 春季企画展「誰も知らない?! 新潟の米の歴史」	佐渡奉行所跡 （佐渡市）
116	令和3年 11月26日	下割遺跡（上越市） 山口遺跡（阿賀野市） 坂之上遺跡（南魚沼市）	埋文コラム「子持勾玉について」 埋文コラム「わか町の文化財紹介－胎内市－分谷地A遺跡」 秋季企画展「倭国大乱～律令国家成立までの越後平野」	城の山古墳 （胎内市）
117	令和4年 3月18日	金屋遺跡（南魚沼市） 丘江遺跡（柏崎市） 新町遺跡（阿賀野市）	埋文コラム「古代の火起こし道具」 埋文コラム「わか町の文化財紹介－見附市－上田遺跡」 令和4年度企画展1の開催予告 / 少年少女考古学教室について	小栗山不動院経塚出土品（見附市）

■ 年間パンフレット

埋文センターが行う普及事業を紹介する令和3年度年間パンフレットを20,000枚作成し、来館者や県内外の博物館等の施設に配付した。

■ ホームページ

埋文センターホームページでは、センターの施設紹介、展示案内、利用案内、企画展・講演会・体験イベントなどの催しもの案内、校外学習の案内、各種申請書類のダウンロードを掲載した。また新たに、講演会等申し込みフォームを追加し、フォームを介しての受付を開始した。

事業団ホームページでは、事業団の組織・業務の公開のほか、発掘調査状況、各発掘調査現場での現地説明会の案内、刊行図書、埋文にいがた等の情報を掲載した。

4月から令和3年3月までのアクセス数は26,846件であった。

■ メールマガジン・Facebook・Twitter・YouTube、その他

メールマガジンは講演会や体験イベントなどの情報を随時配信した。Facebook・Twitterはこれに加え、展示品の紹介や速報性の高い情報などを随時配信した。メールマガジンは登録数31件（昨年度と比べ±0）、Facebookはフォロワー数769件（+70）、Twitterはフォロワー数1,752件（+696）である。

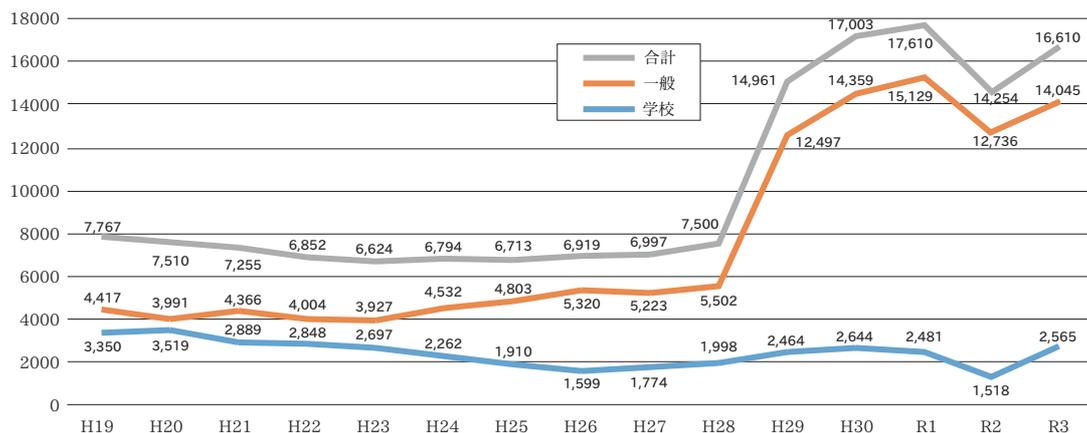
YouTubeは企画展や常設展の紹介動画の他、イベント案内などを配信した。令和3年度は新たに16本を配信した。ライブ配信も含めた埋文センターYouTubeチャンネルの4月から令和4年3月までの視聴回数は4,890回（+2,696）、チャンネル登録者数は115人（+63）であった。

令和2年度に続き、インターネットミュージアムが開催するミュージアムキャラクターアワードに、まいぶんちゃんをエントリーした。結果は599票で23位（昨年度は458票で22位）であった。

6 入館者数

新潟県埋蔵文化財センターは年末年始を除き9時から17時まで開館している。令和3年度は新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため9月3日から16日までの14日間は休館とした。令和2年度よりも一般客の入館は少ないが、学校の校外学習が回復した。また、埋蔵文化財センター講演会を当日聴講できない人のために講演の様子を撮影したビデオの上映会を平日に行った。令和3年度の入館者は16,610名である。

入館者の推移



7 出土品の管理

埋文センターで保管する出土品や写真・図面等の貸出し、掲載、使用、閲覧の依頼に対し、許可及びこれに係る事務を行っている。令和3年度は企画展等のための遺物の貸出し13件7,488点（うち長期貸出し7,292点）、書籍等への写真掲載11件33点、企画展パネルや図録への写真等の利用は6件24点、遺物分析や写真の使用10件87点、遺物の閲覧10件1,620点、合計50件に対応した。詳細は新潟県教育庁文化行政課が発行する『令和3年度 新潟県文化財年報』に掲載される予定である。

8 図 書

埋文センターの資料室では、新潟県内を中心に全国の発掘調査報告書、考古学関係の雑誌など87,308冊を所蔵し、平日にどなたでも閲覧することができる。事業団では、図書の受入れ・整理作業、閲覧・複製の対応などを行っている。令和3年度は2,770冊を受入れ、外部利用者は99人であった。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、9月3日から9月16日まで閉室した。新規受入図書一覧及び県内市町村別発掘調査報告書等目録は、事業団ホームページに掲載している。

(公財) 新潟県埋蔵文化財調査事業団資料室 蔵書・利用統計

蔵 書 統 計

年 度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度
新刊受入冊数	2,702	2,674	2,360	2,450	2,450	2,320	2,361	2,250	2,220	2,300	2,770
累 積 冊 数	63,153	65,827	68,187	70,637	73,087	75,407	77,768	80,018	82,238	84,538	87,308

外部利用者数（※R2.3.2～5.25、R3.9.3～9.16新型コロナウイルスの為、センター閉館。R4.1.18～3.6まん延防止等重点措置）

	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度
市町村教委埋蔵文化財担当者	41	45	34	36	30	29	19	15	13	14	22
大学生・大学院生・大学関係者	56	24	23	6	13	10	17	8	10	9	10
小学生・中学生・高校生	21	2	0	0	0	0	0	0	0	3	0
教 員	1	4	1	1	1	0	1	0	2	1	0
埋文関係民間企業	92	91	49	50	19	33	24	13	11	6	9
その他埋蔵文化財関係者	46	51	71	24	30	21	32	49	21	23	22
一 般	9	16	19	25	25	18	6	16	19	39	36
合 計	266	233	197	142	118	111	99	101	79	93	99

外部利用者コピー機使用件数・枚数（※R2.3.2～5.25、R3.9.3～9.16新型コロナウイルスの為、センター閉館。R4.1.18～3.6まん延防止等重点措置）

	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度
コピ ー 件 数	168	143	107	90	53	67	49	38	43	39	53
コピ ー 枚 数	14,558	7,841	7,473	4,606	1,858	3,002	2,177	2,369	2,210	1,511	2,465

IV 研修・各種委員会

1 職員研修

(1) 調査課、普及・資料課研修

埋蔵文化財専門職員としての資質・能力向上を目的に、県教育委員会などが実施する研修会参加した。

県教育委員会 市町村等埋蔵文化財専門職員実務研修

研修①(令和3年12月17日(金) 新潟県埋蔵文化財センター研修室 事業団参加者2名)

講義「木製品の観察に必要な視点」

講義・実習「木製品の整理方法」

研修②(令和4年2月17日(木)・18日(金) オンライン/新潟県庁西回廊大会議室 事業団参加者3名)

【2月17日】

1) 文化行政課報告

報告①「新潟県における埋蔵文化財保護行政の現状と課題」

報告②「補助金事務、届出・通知等」

報告③「国・県指定文化財の取扱、留意点等」

報告④「普及啓発事業について」

2) 研修テーマ1：災害と文化財保護

① 報告 趣旨説明

② 講演「東日本大震災と福島県富岡町における文化財保護」

③ 講演「中越大震災における文化財の被害とその後の対応」

④ 講演「中越大震災における文化財レスキュー」

⑤ 意見交換「災害と文化財保護」

⑥ 講評(文化庁)

【2月18日】

3) 講演「埋蔵文化財保護行政の現状と課題」(文化庁)

4) 研修テーマ2：誰のための文化財保護か

① 趣旨説明

② 市民共働による文化財の活用

③ イラストを活用した文化財の解説

④ 質疑応答・コメント

2 安全衛生委員会

(1) 委員会

調査現場及び作業場の安全点検、労務災害・交通災害の予防や安全衛生教育の企画立案などをテーマに、委員7名で構成する委員会を年間10回開催した。

(2) 研修・講習

① 救急法講習（令和3年7月30日午前）

全職員を対象に、救急法の講習を行った。

[内 容] 救急法「心肺蘇生等」

[講 師] 日本赤十字社新潟支部 指導員

② 消防訓練（令和3年10月1日午前）

内勤職員を対象に、火災時の行動、非常口・消火設備の配置と使用方法の確認について、消防用設備保守点検委託会社社員の指導を得て、講習・実習・実施訓練を行った。

[内 容] 1 通報訓練

2 避難・誘導訓練

3 非常持ち出し訓練

4 消火器・消火栓使用訓練

[講 師] 新潟ニッタン(株) 社員

(3) 巡視・点検

事務作業環境の安全・衛生管理を目的として、委員が発掘調査現場及び埋蔵文化財センター内を巡視・点検し、担当職員や委託業者に対して改善事項等の指示・指導を行った。

① 発掘調査現場（10か所）

令和3年6月18日 大川城跡、上野遺跡V

6月30日 ササラ西遺跡、金屋遺跡V

7月15日 下割遺跡IX

7月16日 山口遺跡IV、新町遺跡II

10月14日 丘江遺跡X、六日町藤塚遺跡IV

10月21日 竹ノ下遺跡II

② 埋蔵文化財センター

令和3年12月23日 職場内巡視

(4) その他

交通規則の遵守・事故防止について、職員会議などの場で適宜注意を喚起した他、交通事故防止のDVD鑑賞を実施するなど、交通安全（安全運転）の徹底を図った。

V 市町村及び関係機関等への協力

	協力内容	協力先	期日	担当者
1	仮称津南町埋蔵文化財センターおよび令和3年度企画展の共同研究・展示協力	津南町教育委員会	令和2年6月1日～ 令和3年11月30日	田中祐樹
2	令和3年度企画展館外研究員	津南町教育委員会	令和3年5月16日～ 令和3年11月30日	滝沢規朗
3	企画展関連講演会講師「新潟県内の低湿地遺跡と遺跡の総理解へのアプローチ」	新潟市文化財センター	令和3年5月16日	荒川隆史
4	曾我墓所遺跡出土遺物整理指導	新潟市文化財センター	令和3年5月21日	荒川隆史
5	曾我墓所遺跡出土遺物整理指導	新潟市文化財センター	令和3年5月31日	春日真実
6	新潟市デジタル図化編集業務委託事業者評価委員会（プロポーザル提案書の審査）	新潟市文化財センター	令和3年5月31日	春日真実
7	西岩野遺跡発掘調査の現地指導	柏崎市教育委員会	令和3年7月19日	滝沢規朗
8	上越市下割遺跡見学・発掘体験	上越市立諏訪小学校	令和3年9月7日	佐藤友子
9	稲葉遺跡出土遺物整理指導	燕市教育委員会	令和3年9月24日	春日真実
10	山元遺跡保存活用計画策定委員会	村上市教育委員会	令和3年10月4日	滝沢規朗
11	古津八幡山遺跡調査指導	新潟市文化財センター	令和3年10月7日	滝沢規朗
12	曾我墓所遺跡出土遺物整理指導	新潟市文化財センター	令和3年11月16日	春日真実
13	令和3年度市町村等埋蔵文化財専門職員実務研修講師「木製品の観察に必要な視点」	新潟県教育庁文化行政課	令和3年12月17日	荒川隆史
14	新潟県考古学会連絡誌第130号原稿執筆（下割遺跡）	新潟県考古学会	令和3年12月17日 刊行	佐藤友子
15	新潟県考古学会連絡誌第130号原稿執筆（ササラ西遺跡）	新潟県考古学会	令和3年12月17日 刊行	竹部佑介 （榎大石組）、 鈴木俊成
16	道正遺跡・岡崎遺跡・程島館跡出土遺物整理指導	新潟市文化財センター	令和4年1月21日	春日真実
16	佐渡市内遺跡整理指導	佐渡市教育委員会	令和4年3月16日	荒川隆史
17	新潟県考古学会連絡誌第132号原稿執筆（第25回遺跡発掘調査会 シンポジウム上野遺跡と焼かれた人骨）	新潟県考古学会	令和4年5月刊行 予定	石川智紀
18	古代城柵官衙遺跡検討会第50回記念資料集の原稿執筆	古代城柵官衙遺跡検討会	令和6年2月刊行 予定	田中祐樹 春日真実

本書は研究目的での全文複写を許可します

公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団年報

令和 3 年度

印刷 2022 (令和 4) 年 8 月 24 日

発行 2022 (令和 4) 年 8 月 31 日

編集発行 公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団
〒956-0845 新潟県新潟市秋葉区金津 93 番地 1
TEL 0250-25-3981

印刷 有限会社不二出版
TEL 024-932-0111
